



だいとうきんせきしょ とうぜんくん
大東金石書 朗善君編

7帖 1668年
縦37.5cm 横23cm

古碑・塔碑・石幢・石刻などに彫られた文字や模様を、原形のまま紙に写し取ったものを拓本という。

李氏朝鮮時代中期の宗室出身で書画家、李俛（一六三七～一六九三）は、顯宗九年（一六六八）に朝鮮に点在する金石文の拓本をとり、その建立の年代順に編纂した。

掲出書は正帖五冊、続帖二冊が伝存する。六世紀建立の新羅眞興王巡狩碑（現在は韓国の国宝第三号）から十七世紀の朝鮮肅宗時代までに建立された碑文などの拓本約三百種を集め、各拓本の一部分を均一な大きさに切り取って収

録した。各帖の末尾にはそれぞれの名称・撰者・書者・建立年代・所在地などの目録を載せた。この中には現在では原石は勿論、拓本の切れ端すら伝わっていない稀覯本もあって、断片ではあるが価値はとても高い。

李俛はさらに、中国の北宋時代の歴史学者である歐陽修（一〇〇七～一〇七二）が編纂した『集古録』を手本にして『大東金石帖』を編纂したといわれるが、『大東金石書』は『大東金石帖』の標本ないしは目録として作成して『大東金石帖』の前部分につけられたのではないかと考えられ

ている。

旧蔵者の今西龍

（一八七

五～一九

三二）は、

後に『大

東金石帖』

と思しき零帖が一部分伝存していた記憶はあったが、まさか……と深く顧みなかったことを遺憾とする一文を残している。

本館にはまた『今西龍博士蒐集朝鮮金石拓本集』として三百三十種を超える蔵書を貴重書として保管している。

（天理図書館 南田尚紀）



天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

8月6日～20日、31日は閉館。

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）